

《消えた御幸煉瓦製造所》

近代工業として、セメント製造よりも早く煉瓦製造が始まります。耐火建造物に適しているとして、煉瓦の需要が急増していきましたが、関東大震災のとき煉瓦造建築が弱かったため、人気を落としていきます。

この煉瓦製造所が、多摩川の戸手にありました。1888年（明治21）に造られ、翌1898年（明治31）民間に払い下げられて御幸煉瓦製造所となります。ドイツからホフマン釜という焼成釜を輸入し、ベルトコンベアまで備えた近代工場でした。

レンガ製造は、粘性土があって運搬に便利なところに立地しましたから、川沿いに工場ができます。神奈川県では、鶴見川下流にも工場がありましたが、最大の生産量を誇ったのが、御幸煉瓦製造所でした。

しかし、関東大震災後に、歴史から消えます。恐らく、多摩川直轄改修により工場敷地が買収されたこともあるかもしれません。多摩川直轄改修の特徴が、赤レンガ堤ですが、これは御幸煉瓦製造所の名残りかもしれませんね。

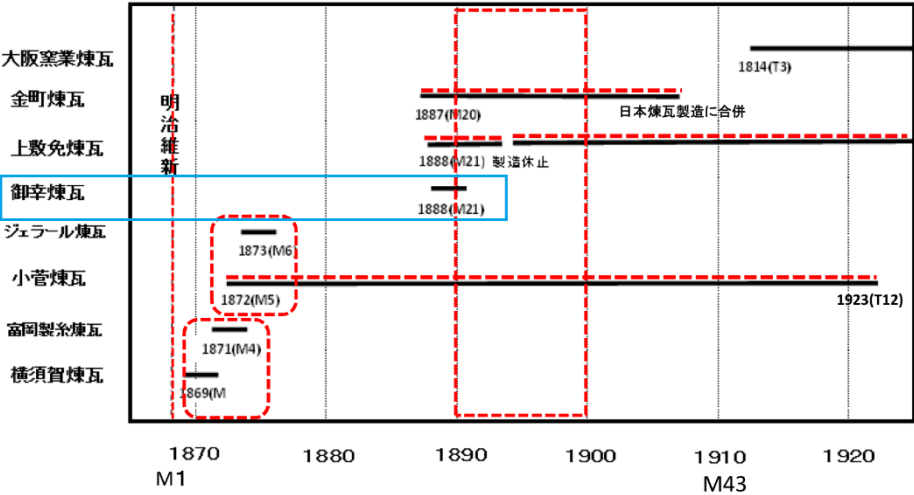
写真は、①多摩川の赤レンガ堤防（羽田に残る赤レンガ堤防）、②煉瓦工場の歴史（小菅煉瓦の歴史 鈴木恒雄作成資料、細見が御幸煉瓦の部分囲む青線を追加）

①



②

煉瓦工場の歴史



各種資料より鈴木が編集した